

調査速報

外食需要動向（2018年6月）

家計の実質外食支出金額は3か月ぶりに前月比プラス

主任研究員

佐橋 官

045-225-2375

sahashi@yokohama-ri.co.jp

要約

- 2018年6月の家計の実質外食支出金額は前月比9.1%増と3か月ぶりに前月の水準を上回った。
- 外食産業全体では、客単価が前年同月の水準を上回る状況が続く一方、6月は客数が3か月ぶりに前年同月比プラスとなったことから、同月の売上高も前年の水準を上回った。
- ただし、業態別に客数の動きをみると、ディナーレストランでは高い伸びとなる一方、居酒屋では前年水準割れとなるなど、業態により様相が異なっている。

1. 6月の家計の実質外食支出は前月比9.1%増と高い伸び率となった

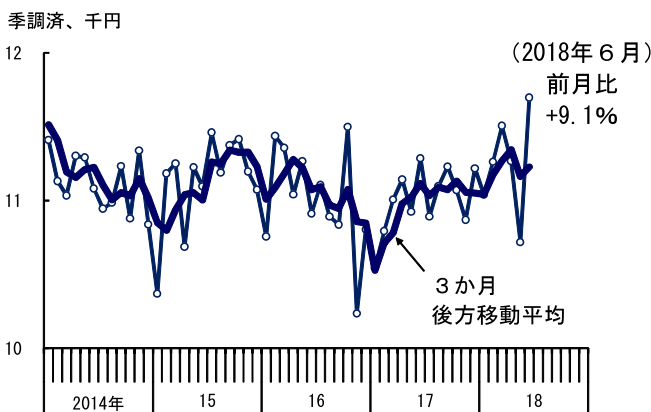
総務省が8月7日に発表した2018年6月の「家計調査」によると、全国の1世帯あたり実質外食支出（2人以上の世帯、学校給食を除く、季調済）は前月比9.1%増（前年同月比1.0%増）と3か月ぶりに前月の水準を上回り、かつ、非常に高い伸び率となった（図表1）。前月（5月）は雨天による家計の外食機会抑制などにより外食支出金額は大きく落ち込んでいた。しかし、当月は関東甲信越地方の梅雨明けが6月29日（梅雨期間が23日と梅雨に関する記録がある1951年以降で最短）となり、前月の反動も相まって家計が外食機会を増加させたことが外食支出増加の主因になったと推察される。

なお、3か月後方移動平均でみたトレンドも増加に転じた。

2. 外食産業客数は3か月ぶりに前年同月比プラス

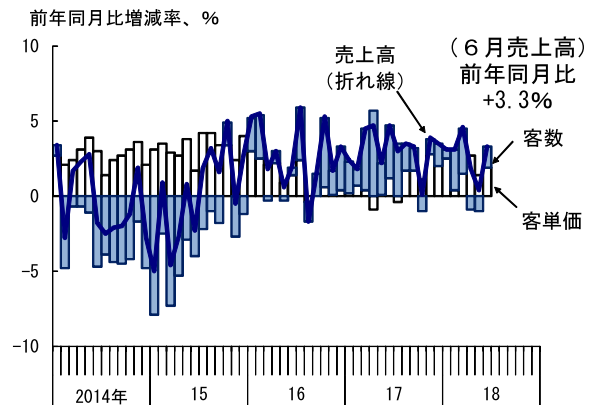
6月の家計の外食支出増加の動きは、外食チェーンの業界統計指標からも確認できる。一般社団法人日本フードサービス協会が7月25日に発表した「外食産業市場動向調査」によると、6月の外食産業の客数は前年同月比1.4%増と3か月ぶりに前年同月の水準を上回った（図表2）。当月は前年（17年6月）に比べて土曜日が1日多く、また全国的に晴れの日が多かったことなどが客数の押し上げ要因となったと推察される。一方、客単価は同1.9%増と前年同月の水準を上回る状況が続いている。このため、外食産業売上高（名目値）は同3.3%増となり、22か月連続で前年同月の水準を上回った。

図表1 6月の実質外食支出は前月比で非常に高い伸び（全国、2人以上の世帯、季調済）



注1：学校給食を除く外食（一般外食）。
注2：実質化と季節調整は浜銀総合研究所が実施。
出所：総務省「家計調査」より浜銀総合研究所作成

図表2 外食産業客数は3か月ぶりに前年同月比プラス（全国、全店）



注1：全店とは、既存店と新規店の合計。
注2：売上高と客単価は名目ベースの税抜き価格による比較。
出所：一般社団法人日本フードサービス協会「外食産業市場動向調査」

3. 客数はディナーレストランで高い伸びとなる一方、居酒屋では前年同月比マイナス

2017年後半以降、外食産業では客単価が前年同月の水準を上回る傾向にある。その背景には人件費や原材料費などのコスト上昇に対応した値上げに加え、一部の業態では利益率改善のために高付加価値メニューを取り揃える動きがある。このような外食産業によるメニュー価格の引き上げは売上高の押し上げ要因となる一方、客数の押し下げ要因としても作用する。したがって、メニュー価格の上昇がみられる足元においては、それが客数の押し下げ要因になっていないかに一段と注意する必要がある。

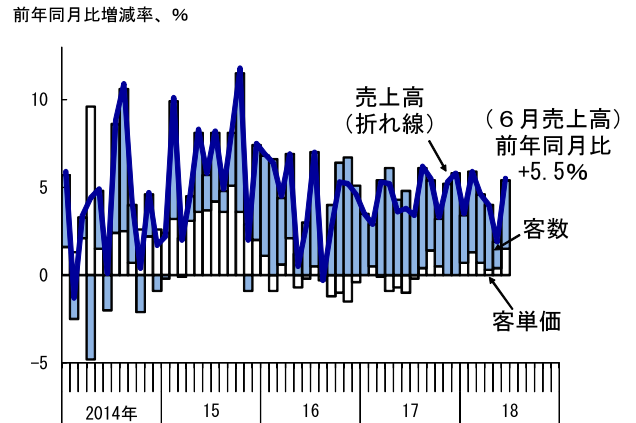
6月の外食チェーンの客数を業態別にみると、主要な業態において前年同月の水準を上回った。(図表3)。客数の伸びが最も高かった業態はディナーレストランであった(図表4)。もともと他業態に比べてメニュー価格の水準が高い同業態では、セットメニューの拡充や「食べ放題」の実施などにより、メニュー価格の上昇を小幅に抑えつつ、客数を伸ばしている。また、ファミリーレストランの客数は3か月ぶりに前年同月の水準を上回った(図表5)。値上げや高付加価値メニューを投入する企業が多いために客単価の上昇が続いているが、客数は他業態に比べて天候の良し悪しによる影響が大きいことがうかがえる。

これらに対して、居酒屋の客数は前年同月比3.3%減と減少が目立つ(図表6)。背景には不採算店舗の閉鎖や業態転換などで店舗数が純減(同2.4%減)していることがある。ただし、客数の減少率は店舗の減少率よりも大幅であり、酒類を提供する他業態との競争において厳しい状況にあることがうかがえる。

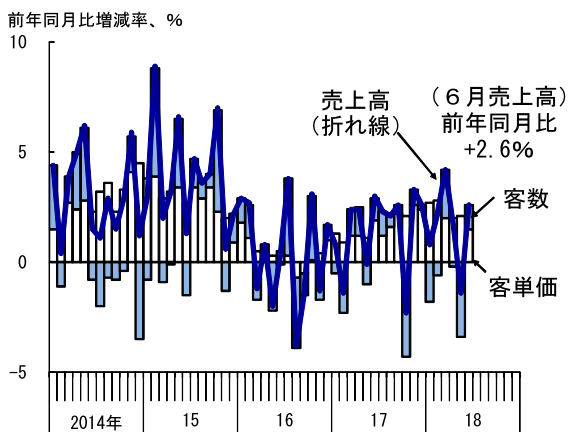
図表3 業態別の外食産業売上高(2018年6月、全店)

| | (前年同月比増減率) | | | |
|------------|------------|-------|-------|-------|
| | 売上高 | 店舗数 | 客数 | 客単価 |
| 全体 | 3.3% | 0.6% | 1.4% | 1.9% |
| ファストフード | 4.3% | 0.6% | 2.0% | 2.2% |
| ファミリーレストラン | 2.6% | 1.0% | 1.1% | 1.5% |
| パブ・居酒屋 | -1.6% | -2.1% | -1.6% | -0.1% |
| 居酒屋 | -3.1% | -2.4% | -3.3% | 0.2% |
| ディナーレストラン | 5.5% | -1.7% | 3.9% | 1.5% |
| 喫茶 | 2.5% | 1.9% | -0.6% | 3.2% |
| その他 | 2.9% | 2.3% | -2.0% | 4.9% |

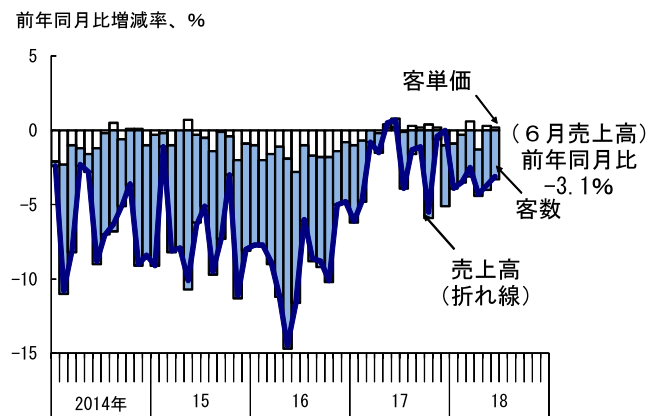
図表4 ディナーレストランは客数の伸びが続く



図表5 ファミリーレストランは客数が回復



図表6 居酒屋は客数の減少が続く



注1：全店とは、既存店と新規店の合計。
 注2：売上高と客単価は名目ベースの税抜き価格による比較。
 出所：一般社団法人日本フードサービス協会「外食産業市場動向調査」

本レポートの目的は情報の提供であり、売買の勧誘ではありません。本レポートに記載されている情報は、浜銀総合研究所・調査部が信頼できると考える情報源に基づいたものですが、その正確性、完全性を保証するものではありません。